

第3回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

- コーディネーター：北海道大学名誉教授 越澤 明 氏
- パネリスト：高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏、犬山市長 山田 拓郎 氏
恵那市長 可知 義明 氏、美濃市長 武藤 鉄弘 氏、明和町長 中井 幸充 氏
岐阜市長 細江 茂光 氏、郡上市長 日置 敏明 氏
名古屋市長 河村 たかし 氏、中部地方整備局長 八鍬 隆
- テーマ：①歴史文化を活かした観光地域づくり
②火災に強い歴史まちづくりに向けて

●主な意見

テーマ①歴史文化を活かした観光地域づくり

- ・高山市では、建物の修理修景を徹底し本物に戻す、外国人観光客を意識し多言語の道路標識、パンフレット、ホームページを作成する、市内に無料のWi-Fiスポットを整備するなど、歩いて回れるまちづくり、安心して回れるまちづくりに向けた環境整備を進めている。
- ・亀山市の「お木曳き」のような伝統行事は、地域への愛着や誇りに繋がり、観光にとっても意義のあるものである。
- ・ユネスコ無形文化遺産登録の実現により犬山祭りのブランド力を向上させるとともに、定住支援なども組み合わせながら、人口減少・担い手不足、山車の維持管理費負担増の問題を考えていく。
- ・本美濃市の手漉和紙技術がユネスコ無形文化遺産登録されたことにより、外国人を含めた観光客が1.7倍、和紙製品等の売り上げが1.5倍になったが、想定外の増加であり、受入体制が不十分。今後、どのようなまちづくりを進めるか課題。
- ・恵那市では、人口減少に伴う空き家の増加が大きな課題。
- ・長良川の伝統文化である鵜飼について、担い手育成、造船技術の伝承といった課題がある。
- ・郡上踊りや祭り、藍染め、鯉のぼりの寒ざらしなどの風物詩など、歴史を感じてもらえるまちづくりを進めていきたい。
- ・名古屋市は大産業都市となったが、産業だけでなく、おもしろさが必要。まずは、天守閣の本物復元をやる。

テーマ②火災に強い歴史まちづくりに向けて

- ・郡上市では、火災、地震に強いまちづくりを目指し取り組んでいきたい。
- ・火災原因として放火が多いことから、岐阜市では、夜間の防犯パトロールを強化している。タクシー、新聞販売店、コンビニなどの協力により、「暮らしの安全モニター」という制度を作ったところ、放火が減ってきた。
- ・明和町では、自治区による夜間パトロール、自主防災組織の立ち上げなど、地域の方々の力を借りつつ防犯に取り組んでいる。
- ・「うだつの上がる町並み」は、名前のとおり火災を防ぐ手立てがされた町並み。うだつのほか、4間幅の道路により火災の延焼を防ぐ工夫がされている。町内の自主防災組織については、高齢化の進展や昼間人口の減少などの課題を抱えている。
- ・岩村地区では、天正疎水という疎水があり、長い町家の中を水が流れていた。その復元や消火栓・消火器の設置のほか、グループによる防災体制づくりなどの火災対策に取り組んでいる。
- ・犬山市では、先日火災が発生したが、夜間は無尽となる建物だった。空き家、空き店舗で火災が発生した場合、発見が遅れ被害が拡大してしまう。そういう面からも、定住対策を考える必要がある。
- ・亀山市では、警防計画を策定し、計画に基づき地域住民、関係機関参加の下、消防訓練を継続実施することで、防災意識を啓発している。
- ・もしもの時に来訪者をどのように避難誘導するか考えていかなければならない。
- ・認定都市間で、課題の共有やノウハウの共有を図るとともに、復旧復興段階における様々な連

携を強化する必要がある。

- 高山市では、伝建地区の防災計画を作り、それに基づき、消火栓の配置、湧水路を利用した可搬ポンプの設置、グループによる防災体制づくりに取り組んでいる。また、土蔵が火を止める役割を果たすことから、土蔵の保存にも力を入れている。さらに、歴史的資産を守ることも大事だが、地域住民、来訪者の命を守ることも大事。そのため、ホテルとの応援協定で一時的な避難所を確保する、外国人旅行者向けに Wi-Fi を通じてシステムで情報を提供する、英語で屋外放送を流す等の取組を進めていく。

【以 上】